

# 平成19年度 事業報告書

社団法人 日本アイソトープ協会

平成20年12月1日に施行されることとなった公益法人制度改革関連法令に適切に対応すべく、当協会の事業の公益性並びに組織運営のあり方について見直しを行った。見直しに際しては、平成18年11月に協会内に設けた「公益法人制度改革対応専門家会議」の審議及び答申の内容、さらに、公益法人制度改革関連法の立法の趣旨を十分に勘案した。

また、近年事業収支が悪化していること及びR I 廃棄物処分費用の積立制度が法制度に取り入れられる可能性が生じたことを受け、外部コンサルタントに協会の将来事業収支並びに経営全般について分析を依頼した。その報告書を基に、必要な経営改革のための具体的な見直し作業を開始した。

調査研究事業においては、図書、視聴覚教材などの発行、安全取扱いに資する研修の実施、各部会による調査研究活動を通してアイソトープ・放射線の安全管理を推進するとともに利用の促進に努めた。

アイソトープ頒布事業においては、表示付認証機器の販売を開始し、安全かつ安定的に供給する体制の維持に努めた。特に放射性医薬品については、PET核医学や内用療法を中心に核医学診療の普及に努め、放射性医薬品利用の基盤拡大を図った。

R I 研究施設の立地については、将来計画の中で、アイソトープ利用の変化に対応できる事業内容及び施設・設備を見直す等の具体的検討を進めた。

環境整備事業においては、R I 廃棄物料金の見直しを行うとともに、環境整備事業全体の収支改善に努めた。また、経営改善方策の一つとして、R I 廃棄物の貯蔵能力の確保に努めるとともに、R I 廃棄物処理施設立地の具体的方策を検討した。処分については、実施主体となる独立行政法人日本原子力研究開発機構に協力し、処分事業の具体化に向けた活動に参画した。

## 会員に関する事項

次表のとおり本年度において186名の会員が減少し、本年度末現在の会員総数は4,326名である。なお、本年度新たに21名の正会員が特別会員に移行した。

	18年度末	19年度		19年度末	増減
		増加数	減少数		
個人正会員	3,914	92	273	3,733	-181
団体正会員	239	11	10	240	1
特別会員	325	21	27	319	-6
賛助会員	34	0	0	34	0
計	4,512	124	310	4,326	-186

## 総会に関する事項

第 54 回通常総会を 5 月 30 日に開催し、次の議題について審議可決した。

- (1) 平成 18 年度事業報告書並びに決算書承認の件
- (2) 平成 19 年度事業計画書並びに予算書承認の件

## 役員会に関する事項

### 1. 第 138 回理事会

第 138 回理事会を 5 月 30 日に開催し、次の議題について審議可決した。

- (1) 平成 18 年度事業報告書（案）並びに決算書（案）の件

### 2. 第 139 回（臨時）理事会

第 139 回（臨時）理事会を 10 月 22 日に開催し、次の議題について審議可決した。

- (1) 新公益社団法人への移行方針の確認並びに移行問題検討委員会設置の件
- (2) 次期役員（理事及び監事）候補者推薦方法の件

### 3. 第 140 回理事会

第 140 回理事会を 3 月 28 日に開催し、次の議題について審議可決した。

- (1) 平成 20 年度事業計画書（案）並びに予算書（案）の件
- (2) 次期役員候補者推薦の件
- (3) 特別会員の推薦の件

### 4. 常任役員会

13 回の常任役員会を開催し、常務に関する事等について審議した。

### 5. 顧問会及び幹事会

4 月 23 日に幹事会、12 月 17 日に顧問会を開催し、協会の事業運営、現在の課題等について意見を交換した。

## 公益法人制度改革対応に関する事項

「公益法人制度改革対応専門家会議」の答申が 3 月に会長に提出された。

同会議の審議及び答申の内容並びに公益法人制度改革関連法の立法の趣旨を十分に勘案し、新公益社団法人移行問題検討委員会において新定款案を検討した。

## 調査研究事業

### 1. 部会活動

#### (1) 理工学部会

理工学分野における利用促進、部会活動活性化の推進

理工学分野における R I ・放射線の利用促進を図るため、部会活動全般の連絡・協議・運営を行った。部会活動の見直しと活性化を図るため、「理工学インフォーマルミーティング」の開催、及び専門委員会の活動、サマースクール（研究会）講演会、見学会等の企画、立案を行い、開催を決定した。

また、第 44 回アイソトープ・放射線研究発表会の特別講演とパネル討論を企画し、提案した。（常任委員会）

「放射線防護用設備・機器ガイド 2008/2009 年版」の発行

放射線施設における放射線防護用設備・機器の適切な使用に資するため、「放射線防護用設備・機器ガイド 2008/2009 年版」の編集作業を進めた。

(放射線防護機器専門委員会)

超低レベル放射能測定技術の調査・検討

超低レベル放射能測定技術の現状、今後の展望等について調査・検討を行った。

「超低レベル放射能測定の実状と展望」の合本冊子を作成し、協会ホームページに掲載した。

(超低レベル放射能測定専門委員会)

中性子イメージングに関する調査・検討

中性子ラジオグラフィの現状を認識し、その技術の発展と展望を探るための調査・検討を行った。また、中性子ラジオグラフィの技術の向上、普及に資するよう

「中性子イメージング技術の基礎と応用」を企画し、RADIOISOTOPES 誌に掲載した。

(中性子イメージング専門委員会)

講演会等の開催

R & I 講演・見学会、サマースクール等を開催した。

## (2) ライフサイエンス部会

ライフサイエンス分野における利用促進

ライフサイエンス分野における R I ・放射線の利用促進を図るため、部会活動全般の連絡・協議・運営を行った。

(常任委員会)

部会活動活性化の推進

部会活動の見直しと活性化を図るための企画、立案を行った。

また、第 44 回アイソトープ・放射線研究発表会のパネル討論を企画し、提案した。

(企画専門委員会)

アイソトープトレーサ研究用機器に関する検討

RADIOISOTOPES 誌の資料として「ライフサイエンスのためのアイソトープ測定機器:第 5 シリーズ ライフサイエンスにおけるイメージング」を企画し、掲載した。

(アイソトープトレーサ研究用機器専門委員会)

安定同位元素の利用の検討

安定同位体の利用促進を図るため、安定同位体利用技術研究会を開催した。また、RADIOISOTOPES 誌総説「安定同位体利用技術」を企画し、掲載した。

(安定同位元素専門委員会)

薬学・薬理学分野の R I 利用の検討

薬学・薬理学研究分野におけるアイソトープ利用の促進を図るため、若手研究者による放射薬学研究発表会に共催した。

(薬学・薬理学研究専門委員会)

獣医療における核医学利用の調査・研究

日本における獣医核医学を推進するため、獣医核医学関連の法的な整備及びガイドライン整備に関する調査・検討を進めた。

(獣医核医学専門委員会)

食品照射についての調査・検討

食品照射に関する内外の情報を収集し、調査・検討を行った。

(食品照射専門委員会)

(3) 医学・薬学部会

医学・薬学分野における利用促進

医学・薬学分野における R I ・放射線の利用促進を図るため、部会活動全般の連絡・協議・運営を行った。

(常任委員会)

部会活動活性化の推進

部会活動の見直しと活性化を図るための企画、立案を行った。また、第 44 回アイソトープ・放射線研究発表会の特別講演・パネル討論を企画し、提案した。

(企画専門委員会)

放射性医薬品の利用促進

放射性医薬品の利用促進と施設内取扱に関し、調査研究を行った。

(放射性医薬品専門委員会)

副作用事例調査の実施

放射性医薬品の安全性確保に資するため、アンケートにより「第 32 回放射性医薬品副作用事例調査」を実施し、調査結果を取りまとめた。

(放射性医薬品安全性専門委員会)

核医学イメージングの規格化及び核医学検査技術向上等に関する検討

核医学イメージング及び核医学検査技術の向上に資するため調査研究を行った。

「第 8 回核医学検査における安全管理等に関するアンケート調査」(3 年に 1 回)を実施した。

(核医学イメージング・検査技術専門委員会)

イムノアッセイ検査全国コントロールサーベイの実施

イムノアッセイ検査の精度管理の向上に資するため、「第 29 回イムノアッセイ検査全国コントロールサーベイ」を実施した。

(インビトロテスト専門委員会)

ポジトロン放出超短半減期 R I の臨床利用の促進

F D G - P E T 検査の適応拡大について検討を進めた。また、「P E T 検査件数に関するアンケート」を実施し、調査結果を取りまとめた。

(ポジトロン核医学利用専門委員会)

医療放射線管理に関する検討

核医学検査における放射線管理上の問題について調査研究を行った。

(医療放射線管理専門委員会)

放射線治療技術及び安全管理に関する検討

密封線源等による放射線治療技術及び安全管理について検討を行った。

(放射線治療専門委員会)

放射性医薬品の臨床評価のためのガイドライン作成に向けた検討

放射性医薬品の開発を推進するため、放射性医薬品の臨床評価のためのガイドライン作成に向けた検討を行った。(放射性医薬品の臨床評価専門委員会)

全国核医学診療実態調査の実施

わが国における核医学診療の現状を把握するため5年に1回行う「全国核医学診療実態調査」の第6回調査(平成19年6月)を実施した。

(全国核医学診療実態調査専門委員会)

アイソトープ内用療法に係るガイドライン等の策定

アイソトープの内用療法を効果的に推進するため、医療安全の確保を図る適正使用のガイドライン等の作成に資する検討を行った。

(アイソトープ内用療法専門委員会)

講演会等の開催

「高線量率ラルス医療安全取扱講習会」(日本放射線腫瘍学会と共催)、「ヨウ素125 シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源の安全取扱講習会」(日本放射線腫瘍学会・日本泌尿器科学会・日本医学放射線学会と共催)、「有痛性骨転移の疼痛治療における塩化ストロンチウム-89 治療安全取扱講習会」(日本医学放射線学会・日本核医学会・日本緩和医療学会・日本放射線腫瘍学会と共催)、「イットリウム-90 標識抗CD20抗体を用いた放射免疫療法の安全取扱講習会」(日本医学放射線学会・日本核医学会・日本血液学会・日本放射線腫瘍学会と共催)を開催した。

#### (4) 放射線取扱主任者部会

部会運営と支部間連絡調整

部会委員会の運営及び支部間の連絡調整を行った。

平成19年度主任者部会年次大会(第48回部会総会)を10月4、5日に札幌において開催した。(本部運営委員会)

部会総会等の企画及び職種間・専門分野間の情報交換

部会総会の企画を進めた。

各支部主催の教育訓練講習会の内容を向上させるため、アンケート集計の結果を分析し、各支部に改善への提言を行った。

協会の定期講習の実施について企画面を中心に協力した。

職種別・専門分野別の分科会活動の推進を図った。(企画委員会)

情報の収集と広報

放射線管理に必要な情報を収集し、Isotope News「主任者コーナー」No.636～647に掲載した。(広報委員会)

法令の課題の検討

廃棄物のクリアランス及びICRP新勧告について国内外の情報を収集、検討を行い、Isotope News「主任者コーナー」に報告を掲載する準備を進めた。

(法令検討委員会)

主任者試験問題の解答例作成

主任者試験問題の解答例を、第1種は関東支部、第2種は中部・近畿支部が中心となり作成した。  
(試験問題解答例作成委員会)

各支部において研修会、勉強会、法定の教育訓練講習会を開催した。

開催地：札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、京都、岡山、福岡、鹿児島

法定教育訓練の講師派遣

35事業所等からの依頼を受けて、法定教育訓練の講師を派遣した。

## 2. 研究発表会、講習会の開催

本年度において開催した研究発表会、講習会等は以下の通りである。

### (1) 研究発表会

第44回 アイソトープ・放射線研究発表会(当協会主催、関係61学・協会共催)  
を7月4日～6日に日本青年館において開催した。

(アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会)

### (2) 講習会

第277回～第287回 第1種放射線取扱主任者講習[文部科学省]

第3回～第5回 第3種放射線取扱主任者講習[文部科学省]

使第0701回～使第0716回・販第0701回～販第0716回

放射線取扱主任者定期講習[文部科学省]

第85回～第87回 第一種作業環境測定士(放射性物質)講習[厚生労働省]

第36回 ラジオアイソトープ安全取扱講習会

第49回 密封線源安全取扱講習会

第76回 アイソトープ基礎技術入門講習会

第13回 第1種主任者育成講習会

第13回 第2種主任者育成講習会

第1回 アイソトープ土曜講座

(講習会企画委員会)

## 3. 図書等の刊行、頒布

本年度において発行した図書、出版物等は次の通りである。

### (1) 機関誌

Isotope News(広報誌)No.636～647

(Isotope News編集委員会)

RADIOISOTOPES(学術誌)Vol.56 No.4～Vol.57 No.3

(RADIOISOTOPES編集委員会)

### (2) 出版物等

ICRP Publ.94 非密封放射性核種による治療を受けた患者の解放

放射線安全管理の実際(2版)

第1種放射線取扱主任者試験 課目別問題集

アイソトープ法令集( ) - 放射線障害防止法関係法令 - 2007年版

アイソトープ法令集( ) - 医療放射線防護関係法令 - 2007年版

アイソトープ法令集( ) - 労働安全衛生、輸送、その他関係法令 - 2007年版

第 2 種放射線取扱主任者試験問題と解答例 [第 49 回]

第 1 種放射線取扱主任者試験問題と解答例 [第 52 回]

(出版企画委員会)

#### 4. 普及啓発活動

第 11 回 RADIOISOTOPES 誌論文奨励賞表彰を実施し、10 論文 13 名を表彰した。  
施設公開行事及び施設見学者の受け入れにより、R I ・放射線について啓発活動を行った。  
(武見記念館)

#### 5. 試験研究等

##### (1) 甲賀研究所

医療機器、包装材料等の放射線滅菌及び高分子化合物の処理・加工等に関する試験研究を行うとともに、試験照射を 618 件受託した。

容器、包装材料、高分子化合物原料、実験動物飼料及び微生物検査器具などにつき、主として低線量の実用照射を 246 件受託、実施した(再委託照射)。

共同利用照射サービスを 16 課題 79 件実施した。

医療機器の滅菌線量監査試験における検定線量照射等の試験研究を行い、検定線量照射を 85 件受託した。

医療機器等の滅菌バリデーション等に関する微生物試験研究を行い、微生物試験を 96 件受託した。

放射線滅菌に関する微生物の取扱技術者養成のための受託研修を 2 件実施した。

国立医薬品食品衛生研究所からの受託研究として、食品照射検知に関して微生物試験法の 2 題を実施した。

##### (2) 仁科記念サイクロトロンセンター

ポジトロン核医学 7 課題、P I X E 分析 27 課題、薬剤合成 1 課題を採択し、全国共同利用を行った。

P I X E 分析の研究開発を行った。

更新した設備及び機器を共同利用に供して、研究活動の充実を図った。

##### (3) 武見記念館

R I の利用及び核医学等に関する展示の一般公開を行った。

#### R I 頒布事業

##### 1. R I

(1) 標識化合物、精製 R I 及び密封線源の頒布を行った。R I 頒布総額は 7,640 百万円であった。

- (2) 計量法登録事業者として認定を受け、同事業に基づく放射線及び放射能標準の供給の他、各種校正・測定サービスを行った。
- (3) 「アイソトープ等流通統計」を発行する等、アイソトープ等の流通に係る情報提供を行った。
- (4) 文部科学省からの「放射性同位元素等の安全管理に関する協力依頼」に基づき、不明線源等について関係機関と協力して調査、回収、保管等を行うなどして安全確保に努めた。
- (5) 警察、消防関係者及びR I 輸送業者等を対象に、R I 基礎知識、取扱い、輸送及び測定実習に関する講習会等を開催した。
- (6) 障害防止法の適用について、使用者、販売業者等に情報提供を行った。
- (7) 本部R I 施設・設備の維持管理のため、必要な整備を実施した。
- (8) 国産非密封アイソトープとして独立行政法人理化学研究所製アイソトープの販売を開始した。

## 2. 放射性医薬品

- (1) 放射性医薬品の頒布を行った。頒布金額は49,251百万円であった。平成19年11月には有痛性疼痛緩和剤メタストロン ( $^{89}\text{Sr}$ ) の頒布を開始した。
- (2) インターネットによる放射性医薬品共同受注システム(略称:R I O S - N E T) のハード及びソフトウェアの更新を図るとともに、「R I O S - N E T 利用者のための放射性医薬品管理システム」を配付し、使用者の便宜、安全取扱、適正利用を推進した。
- (3) 「医療R I 通信」, 「放射性医薬品一覧表」及び「放射性医薬品流通統計」を配付し、情報提供を行った。
- (4) カナダA E C L 原子炉停止に伴い  $^{99}\text{Mo}$  の原料入荷にトラブルが発生した折、製品供給の調整などについて医薬品メーカーと連携をとって、被害を最小限に留めるとともに全国の使用施設に対して緊急時一斉連絡システムによりの確な情報を迅速に提供した。
- (5) 日本放射性医薬品協会の協力の下、薬事法に基づく放射性物質の輸送に係る教育訓練として、輸送安全に関する講習会を開催した。
- (6) 有痛性疼痛緩和剤メタストロン ( $^{89}\text{Sr}$ ) 及びB細胞性非リンパ腫治療剤ゼヴァリン ( $^{90}\text{Y}$ ) に関して、適正使用マニュアルの作成、安全取扱講習会開催に協力した。また、これらの放射性医薬品基準の改訂に際して技術的支援をした。
- (7) 獣医療における核医学診療実施のための放射線安全管理の整備に関して技術的支援をした。

- (8) 日本核医学会PET核医学分科会、臨床PET推進会議の事業運営に事務局として協力した。イムノアッセイ研究発表会の開催を事務局としてサポートした。

#### 環境整備事業

##### 1．R I 廃棄物の集荷

R I 事業所から発生したR I 廃棄物（医療R I 廃棄物、研究R I 廃棄物）の集荷を実施した。なお、本年度の集荷本数は、11,739本（200L換算）であった。

##### 2．R I 廃棄物の処理

集荷し、貯蔵したR I 廃棄物は、医療R I 廃棄物を茅記念滝沢研究所において処理する等、適切に処理した。

##### 3．処分事業の推進

独立行政法人日本原子力研究開発機構、財団法人原子力研究バックエンド推進センターと協力し、R I ・研究所等廃棄物の処分事業を推進するための活動を行った。

##### 4．クリアランス制度整備の推進

クリアランス制度の整備を推進するため、クリアランス検討委員会を設置し、審議・検討を進めた。

##### 5．茅記念滝沢研究所

医療R I 廃棄物を適切に貯蔵し、処理を行った

医療R I 廃棄物の貯蔵・減容処理・保管に係る活動について、ISO9001:2000の認証を取得した。

茅記念滝沢研究所設立20周年を記念し、記念式典及び施設見学会を開催した。

#### R I 施設の立地

本部R I 研究施設の移転計画については、アイソトープ利用の変化に対応できる施設・設備の検討及び用地取得のための調査を行った。また、研究R I 廃棄物の貯蔵能力を確保するための用地の確保に努めるとともに貯蔵施設を整備した。